

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2016年3月号(第15号)



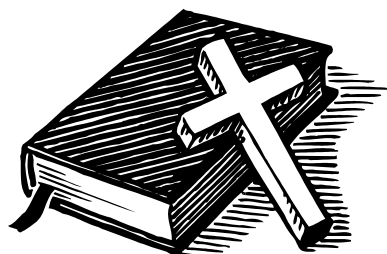
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからです。【コリント人への手紙 4章 14節】

作家の三浦綾子さんの代表作に『氷点』がありますが、その続編に『続 氷点』という作品があります。その中で、三人で「死」について以下のように会話する場面があります。

「死って一体何だろうね。全くの絶望かね」

「それは絶望ですわ、あなた。死ねば何もかも終わりですもの」

「そうですね。死は全くの終わりですからね。灰と僅かな骨だけが残る。後は煙になってしまう。それが死ですよ」

ここで言われている「全くの絶望」「全くの終わり」という考え方に同意される方もおられるかと思います。死の向こう側が現実のものとして見えている人はいません。

ですから、人は色々なことを想像します。

時々臨死体験をした方が取り上げられます

が、それも実際のところ本当のことなのか

どうかは分かりません。死は確かにこの世

にあっては「全くの終わり」です。もうこの

地上で何もすることは出来ません。そうい

う意味において「全くの終わり」です。しか

し、人がこの地上で一生懸命生きたにも関

わらず、死んだら「全くの終わり」だとする

ならば、人が生きる意味とは何でしょうか。

仕事、勉強、部活、家事、遊び等、何の意味

があるのでしょうか。本気で死後に何もな

いと信じていたら、人は絶望して生きてい

けないように思います。生きる意味を失っ

てしまうように思います。あなたはどう思

われますか？

私はキリスト教会の牧師です。ですから、聖書に記されていることを信じ、そこに希望をおいています。そこで聖書が死後についてどのように言っているのか確認したいと思います。それが、今月の聖書のことばです。そこには「主イエスをよみがえらせた方が」とあります。ご存知の方もおられるかもしれませんが、イエス・キリストは十字架に架かって処刑されました。しかし、それから三日目に全能の神の力によって復活したことが聖書に記されています。そして、それを目撃し、復活のキリストと共に食事をした弟子たちが、キリストが復活したことを宣べ伝えました。その結果、この佐倉まで福音が届いたのです。聖書には、主イエスをよみがえらせた神が「私たちをもイエスとともによみがえらせ」とあります。聖書には、死んで後、私たちがよみがえることが記されています。そして、御前（神の前）に立たせて頂き、神と共に住むこと

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 10:30～12:00
教会学校 9:00～10:00

○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
19:30～21:00

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

になります。聖書は、決して死んで終わりだとは言いません。死んだ先があることを教えています。それが「よみがえり（復活）」です。これはクリスチャンに最大の希望を与えるものです。その希望があるからこそ、今を生きる意味があります。葬儀も悲しみと共に喜びがあります。この復活の希望の根拠は、イエス・キリストが復活したことです。死んだ人がよみがえるということを疑われる方もおられるかもしれませんが、実際、聖書の中にもキリストの復活を疑った人がいました。3月27日はイースターと呼ばれる復活祭ですが、その日はキリストの復活を疑った人を取り上げます。どうか、一度キリスト教会に足をお運びください。

◆コラム

イエス・キリストが復活したことをお祝いするイースターは月日が定まっておらず、毎年違います。いつイースターを行うか、ということについて約1700前に論争があったようです。そのため、325年の第1回ニカイア総会議で、復活祭は春分後の最初の満月の直後の日曜日とすると定められました。春分は3月21日頃ですから、復活日は3月22日から4月25日の間となります。ちなみに、今年は3月27日がイースターです。キリスト教会にとっては、クリスマスと同じように大切な日です。ぜひ一度イースター礼拝に足をお運びください。